

<訂正とお詫び>

2020 バスケットボール競技規則・解説（インタープリテーション）の本文に誤りがございましたので、お詫びして以下のとおり訂正いたします。

訂正① <競技規則 67 ページ/インタープリテーション 46-13 2 行目>

「誤」	「正」
第3クォーター	第4クォーター

訂正② <競技規則 183 ページ/インタープリテーション 36-49 解説(a) 、 184 ページ/36-50 解説(a)>

「誤」	「正」
<p>－A 1 のショットが成功しなかった場合、テクニカルファウルが宣せられたときにボールがあった場所に最も近い位置から、チーム B のスローインでゲームが再開される。</p>	<p>－A 1 のショットが成功しなかった場合、テクニカルファウルが宣せられたときにボールがあった場所に最も近い位置から、チーム A のスローインでゲームが再開される。</p>

訂正③ <競技規則 149 ページ/インタープリテーション 25-5>

「誤」	「正」
<p>条文： A 1 がバスケットに向かってペネトレイトをしながらボールを両手で持ち、ツーポイントのショットの動作に入った。そのひと続きの動作の中で B 1 にファウルをされ、そのあとトラベリングのバイオレーションをしたが、ボールはバスケットに入った。 解説： 得点は認められない。2 本のフリースローが A 1 に与えられる。</p>	<p>条文： プレーヤーがショットの動作中にファウルを受けたあと、トラベリングのバイオレーションをしてショットを成功させた場合は、得点は認められずフリースローが与えられる。</p>

訂正④ <競技規則 168 ページ/インタープリテーション 31-13>

「誤」	「正」
<p>条文： A 1 がショットを放ち、そのボールが上昇しているときに A 2 あるいは B 2 がボールに触れた。その後バスケットに向かって下降しているボールに： (a) A 3 が触れた。 (b) B 3 が触れた。 解説： A 2 あるいは B 2 が、上昇しているボールに触れることは正当であり、フィールドゴールのショットであることに変わりはない。しかし、その後下降しているボールに A 3 あるいは B 3 が触れるとバイオレーションになる。 (a) フリースローラインの延長線上からのスローインとしてボールがチーム B に与えられる。 (b) 2 点または 3 点が A 1 に与えられる。</p>	<p>条文： プレーヤーがバックボードあるいはリングを揺らしてボールがバスケットに入ることを妨げる、あるいはバスケットに入るようになっていると審判が判断した場合、インタフェアレンスのバイオレーションである。</p>

訂正⑤ <競技規則 186 ページ/インタープリテーション 37-12>

「誤」	「正」
<p>条文： 速攻に出ているオフenseのプレーヤーとそのチームが攻めるバスケットとの間にディフェンスのプレーヤーが全くいない状況で、その速攻を止めるためにディフェンスのプレーヤーが、そのオフenseのプレーヤーの後ろあるいは横から起こす触れ合いに対しては、オフenseのプレーヤーがショットの動作に入る前であれば、アンスポーツマンライクファウルが宣せられなければならない。一方ボールに対するプレーではなく、かつ、正当なバスケットボールのプレーとは認められないプレー、また激しい触れ合いについてはゲーム中のいかなる状況においてもアンスポーツマンライクファウルが宣せられる。</p>	<p>条文： 5 個目のファウルを宣せられたプレーヤーは失格になる。さらに生じたテクニカルファウルやアンスポーツマンライクファウル、ディスクォリファイングファウルはそれに応じて罰せられる。</p>